

8月2日(日)

8月の魚の日はお休みします。

数量限定

1樽

5,980(税込)円

酢
味
だ
だ
こ

こんにちはお久しぶりの
藤澤です。
梅雨もあけジメジメと暑
い日が続きますね。私は、暑
くて釣りにも行かずダラダ
ラと家でクーラーに扇風機
と仲良く過ごしています。
猛暑で食欲もなくなるこ
の時期に今回の広告、暑い
季節にぴったり！さっぱり爽
やかな酢なこと、旨みたっぷ
りで食べやすい味付けだこ
をご用意しました。
ブリツとした食感と、たこ
本来の美味しさが楽しめる
一品。そのままつまみや、お
かずに暑い季節には、ぴった
り！サラダや酢の物にもお
すすめです。
今日の食卓に、手軽で美
味しいたこをぜひどうぞ！
西田鮮魚店 藤澤 真



西田鮮魚店 ☎72-5246

御用聞き便専用番号 ☎090-7125-5489 (旧庄原市内はご自宅に配達)

『お帰りなさい』

鮮コーポレーション(株) 代表取締役会長 西田 昌史



I ペチュニアの咲く花壇

ジョイフルの入りに口到手づくりのかわいい花壇がある。春から夏にかけてはペチュニア、秋冬はパンジーが咲く。今は、ピンクのペチュニアが広がり、そのまわりを白のペチュニアが彩る。ところどころにコキアやラベンダー、ミニバラがアクセントで植えられ、目立たないけどマリーゴールドも隠れているんですと教えてくれた。

本部の女性スタッフが世話してくれている。今日も始業前に水やりしてくれたそうだ。この暑さだ。ペチュニアも水がほしかろう。世話する彼女たちの細やかな仕事に感謝だ。

「なんでペチュニア？」およそ園芸とか花に縁のない私が聞いた。「夏の花だから」「かわいいから」そう言ったあと、思いがけない言葉がかえってきた。

「鳥取に『村岡オーガニック』という会社があるんですが、その社長さんの弟が、私の同級生なんです。その会社で『マドンナの宝石』という名のペチュニアを自社で育成して売られているんです。とても頑張っているので、応援してあげたくて……庄原でも売られている店があるんですよ」

なるほどな、誰に対してもやさしさを忘れない彼女ならではのほっこりした。ネットで村岡オーガニックを見た。前向きな、夢を語ることのできる若い経営者。応援したくなる気持ちがわかった。それはともかく、半世紀近く続くジョイフルだ。スタッフみんなの、こうした小さな工夫や努力がいたるところにある。だから、こうして続けることができている。誰も気づいていないかもしれないが、この小さな花壇が、ジョイフルの象徴なのだと思う。

II なじみのお客さま

40年が過ぎたジョイフルは相当くたぶれている。昭和のころの元気は望むべくもない。放っていたら消えてしまいうさだ。といって大きなことをするエネルギーもない。お客さまも、そこはわかっている。なにしろ一緒に年をとってきたのだから。

ジョイフルに来られるお客さまが、ジョイフルに来られるいちばんの理由は、ジョイフルが居心地がいいからだと思う。

それって、言いかえたら『なじみ』だからということだろう。私も、店に立たなくなつて30年以上になるが、たまにだが、店に行くと、あのころのお客さまに会ったりする。なじみのお客さまに。「元気でおるん?」「仕事をしようるんか?」「生きとったんか」けっこういじられる。それが心地いい。

店のスタッフとお客さまのやりとりを聞いていると、うらやましくなることがある。時々、「おいおい、そんなため口じゃあ、いけんじゃろ」とハラハラすることもあるが、お客さまも笑顔で楽しそうだから良しとする。なじみのお客さまなんだ。私もそうだった。これがジョイフルなんだと。

III ジョイフル夏のフリーマーケット

手元に一枚の広告の原稿がある。

『夏だっ!! 8月8日(土) ジョイフルの縁日 開催』というタイトルがあつて、『お帰りなさい!みんなジョイフルに来てみんなさ。い。こどもたち集まれ』というキャッチフレーズが並んでいる。「お帰りなさい」この言葉が、ジョイフルのお盆の決まり文句だ。それこそ、なじみのお客さまへの思いがこもっている。

毎年8月には、ジョイフルで『庄原よいとこ祭り実行委員会』と一緒に、夏祭りとして縁日をする事になっている。今年もやる。今年は、縁日プラス『フリーマーケット』だ。ジョイフルの二階プリンセスガーデンと正面駐車場で。



その広告だ。こどもたちがわくわくするような、お父さんお母さんに、ついでに、爺じ婆ばにも連れて行ってくれとねだるような、そんな広告に仕上げたい。だが、ちょっと違う。どう変えればいい? 広告をお願いしているシンセイアートの福岡さんと話した。彼が言う。

「土曜日のお昼では、こども達はなかなかジョイフルに来れませんよ。暑いですし。フリーマーケットに22店も集まったのなら、そっちを中心にしたほうがいいんじゃないですか。屋内のフリーマーケットは少ないですからね。過ごしやすいから、涼みがてらでも来られると思いますよ。縁日の出しものは、フリーマーケットの中の催しとしてやったら、大人の方もこどもも楽しんでくれるですよ」

素直なわたしは、そのアドバイスに一も二もなく従った。変えた。タイトルは『ジョイフル夏のフリーマーケット』キャッチフレーズは『お宝をさがせ!』。そして『お帰りなさい』

IV はたらくくるま

出店してくださる店でいちばん多いのは『おもちゃ』。わかる。孫が8人いる。爺婆は、孫のためなら財布のひももゆるむ。孫が来たとき、遊ぶものがなければと買ってやる。

8人のうち長女の3人の孫は、もうおもちゃはいらない(その分金額も張りはするが)。あとの5人のうち、女の子は3人、男の子は2人。女の子は1才が2人と4才。まだ、あまりおもちゃを欲しがらない。だが男の子は2人とも3才。『はたらくくるま』が大好きだ。来るたびに買ってやる(ミニカーだけ)。でも、すぐに飽きる。爺婆は考える。もったいない。

そんなとき、長女が言った。「誉のを持ってこようか?」誉は小学2年生。『はたらくくるま』はもういらぬ。持ってきた。プラスチックケースいっぱい『はたらくくるま』。目の前に広がる『はたらくくるま』の山。孫2人は目を輝かす。

「そうか、この子たちは新品でなくてもいいのか、そうかあ」。しかし『はたらくくるま』に目を輝かせる時間はあつという間に過ぎていく。すぐに目もくれなくなる。どこに収める? 置き場に困る。なるほど、おもちゃは、みんなで持ち回り。これだ。

フリーマーケットにこれほどピッタリくるものもない。

売る側も買う側も大助かりだ。我が家はまだ買う側だけど。

おもちゃに限らず、こどものものは、みんなで持ち回り。今さらながら爺じは気がついた。フリーマーケットがもてはやされるわけだ。世の中、よくできている。

V 無念

もちろんこどものものばかりではない。

フリーマーケットの話を聞いた悦子はすぐさま言った。

「私も出そう」「何を?」「フラのスカート」「ん?」

あの色鮮やかなスカートを誰が、いつ、はくのだろう?

確かに、嫁いだ娘の部屋が、何度かはいたわけでもない新品同様のフラのスカートのクロゼットになつてゐるのは知つてゐるが……。

まあ、売れる売れんは別にして、会場があでやかになるのはまちがいない。悦子も店に立つと言う。がんばってくれ。

しかし、出れなくなった。この日、よいとこ祭りの芸能祭のリハールがあるのだそうだ。悦子たちの『マナオラナ』も出演するので、そちらに行かなければならなくなった。無念だ。なんとか……。

8月8日。なじみのお客さままでジョイフルをいっぱいにしたい。「お帰りなさい」の声かけが飛び交う一日にしたい。



2026年8月2日